体操採点ＡＩ活用

ＦＩＧ東京五輪は補助で

国際体操連盟（ＦＩＧ）は20日、東京都内で記者会見を開き、富士通が開発した体操の「採点支援システム」を採用すると発表した。2020年東京五輪では審判員が採点し、このシステムは一部の種目で補助として活用される。システムは、選手の動きを立体的に解析する「３Ｄレーザーセンサー」と人工知能（ＡＩ）を活用したもの。選手に毎秒230万点のレーザーを照射し、体の動きを解析して、1300種類以上の技を覚え込ませたＡＩが瞬時に技の名前や回転数、動きの正確性などを判別するという。

体操では、高難度の技が増え、目視では判定が難しい場面が増えている。ＦＩＧの渡辺守成会長は記者会見で「採点スポーツが課題にしていた審判の公平性を飛躍的に高めてくれる」と期待を寄せた。【円谷美晶】